

GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

Marubeni

2019.06

2019年度 第1四半期決算 IR資料

2019.8.2 証券コード：8002

将来見通しに関する注意事項： 本資料に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等は、本資料の発表日現在における入手可能な情報、一定の前提や予期に基づくものです。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があります。当社は、本資料の情報の利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本資料に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等についてアップデートする義務を負うものではありません。

(注記事項)

- * 純利益：親会社の所有者に帰属する四半期利益/当期利益
- * 2019年度見通し：2019年5月9日に公表した通期見通し
- * 実態純利益：純利益から一過性要因を控除した概数を表記。一過性要因の明細についてはIR補足資料P3に記載。
- * 基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除。なお、2018年度第3四半期決算より、基礎営業キャッシュ・フローの算出方法を変更しております。本変更に伴い、過年度の計数についても更新しております。
- * 新規投資、CAPEX等、回収：投資キャッシュ・フローで認識している項目に加えて、一部財務キャッシュ・フローで認識している項目を含みます。
- * CAPEX等：既存投融資案件の価値を維持・向上するための追加的な設備投資等
- * P4「03 純利益・実態純利益の推移」：分野別の分類：2017年度以前は『2018年度の組織』に基づき分類、2018年度・2019年度については、『2019年度の新組織』に基づき分類しております。
分野別の分類 資源分野：『2019年度の新組織』＝「エネルギー」と「金属」の合計から鉄鋼製品事業部を控除したもの（『2018年度の組織』＝「エネルギー・金属」から「鉄鋼製品事業」を控除したもの）
その他：『2019年度の新組織』＝「次世代事業開発」と「その他」の合計（『2018年度の組織』＝「その他」）
非資源分野：全社合計から資源分野とその他を控除したもの
- * P8「07 セグメント別 損益の状況」：2019年4月より「食料」、「生活産業」、「素材」、「エネルギー・金属」、「電力・プラント」及び「輸送機」としていたオペレーティング・セグメントを、「ライフスタイル」、「情報・不動産」、「フォレストプロダクト」、「食料」、「アグリ事業」、「化学品」、「電力」、「エネルギー」、「金属」、「プラント」、「航空・船舶」、「金融・リース事業」、「建機・自動車・産機」及び「次世代事業開発」に再編しております。これらの変更に伴い、前年同期のオペレーティング・セグメント情報を組み替えて表示しております。

01 2019年度第1四半期連結決算の概要

(億円)

	2018年度 Q1	2019年度 Q1	前年同期比	2019年度見通し
純利益	868	652 (進捗率27%)	-217 (-25%)	2,400
実態純利益	760	700 (進捗率29%)	-60 (-8%)	2,420
基礎営業 キャッシュ・フロー	+983	+954 (進捗率24%)	-29 (-3%)	+3,900
株主還元後フリー キャッシュ・フロー	△ 387	△ 452	-	+1,000
	2019年3月末	2019年6月末	前年度末比	2020年3月末見通し
ネットDELシオ	0.90倍	0.95倍	0.05ポイント 上昇	0.8倍程度

01 2019年度第1四半期連結決算の概要

2019年度第1四半期 連結決算の概要

純利益は652億円。前年同期比△217億円(-25%)減益

実態純利益は約700億円。前年同期比約△60億円(-8%)減益

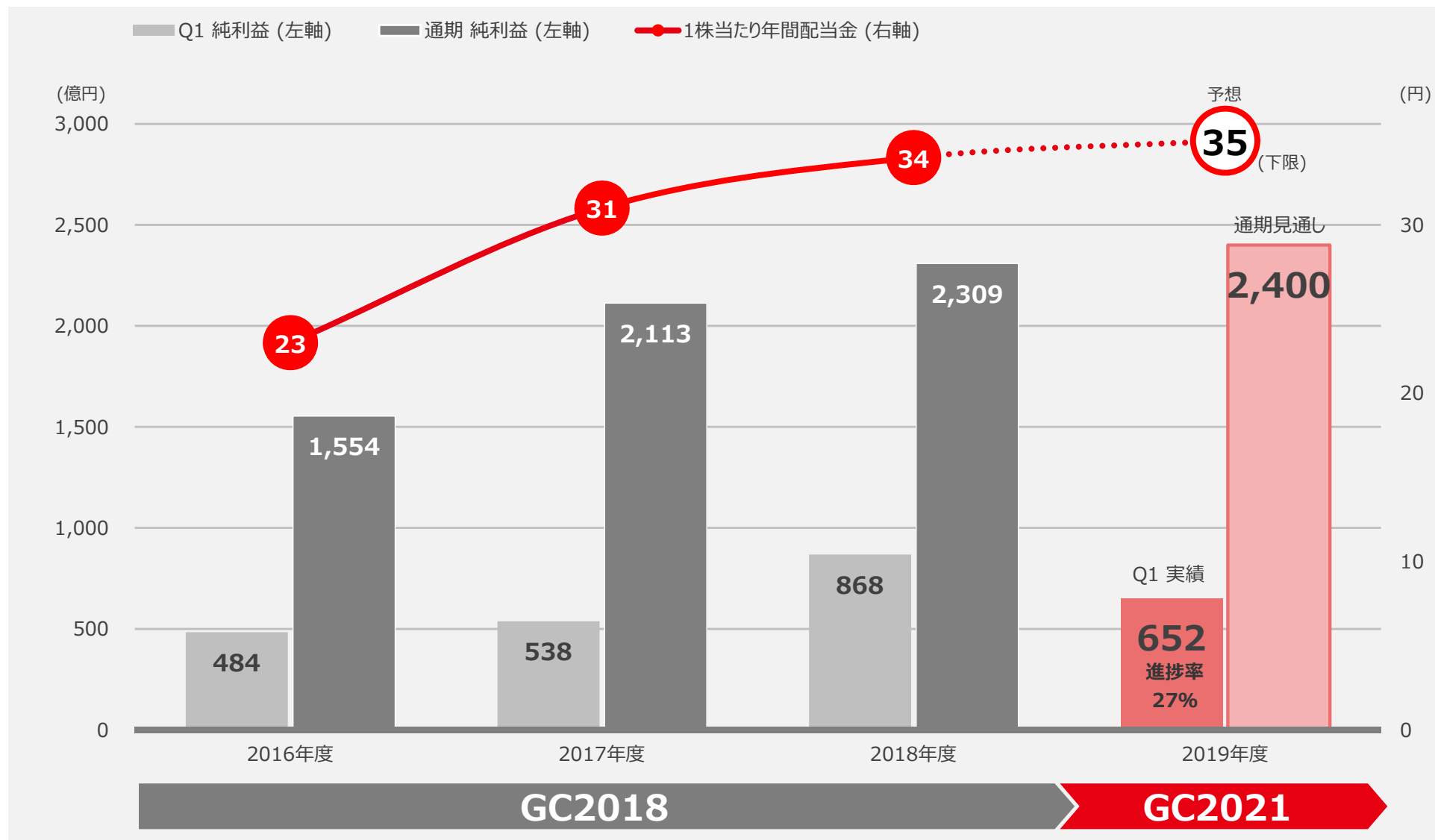
純利益の減益△217億円の内訳

- 実態純利益の減益約△60億円（非資源は約△110億円の減益：電力、化学品、アグリ事業等、資源は約+40億円の増益：金属）
- 一過性要因に関する損益の悪化約△160億円（主に前年同期に計上した国内発電事業の売却益の反動と
当期における石油・ガス開発事業における減損損失の計上）

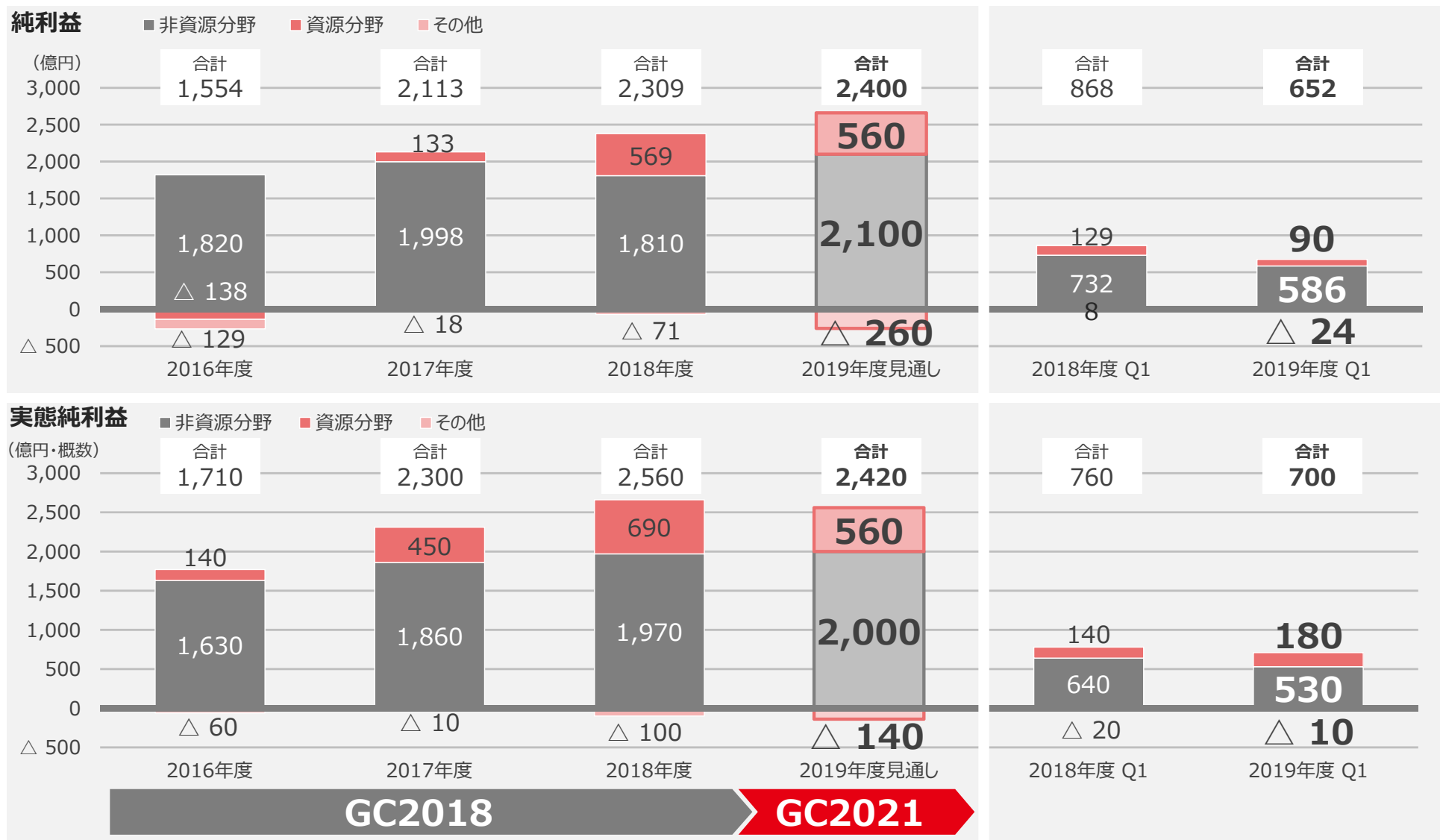
ネットDEレシオは前年度末比0.05ポイント上昇の0.95倍

- 基礎営業キャッシュ・フローは+954億円。前年同期比△29億円。
- 株主還元後フリーキャッシュ・フローは△452億円。5月9日に公表した+1,000億円の通期見通しは変更なし。

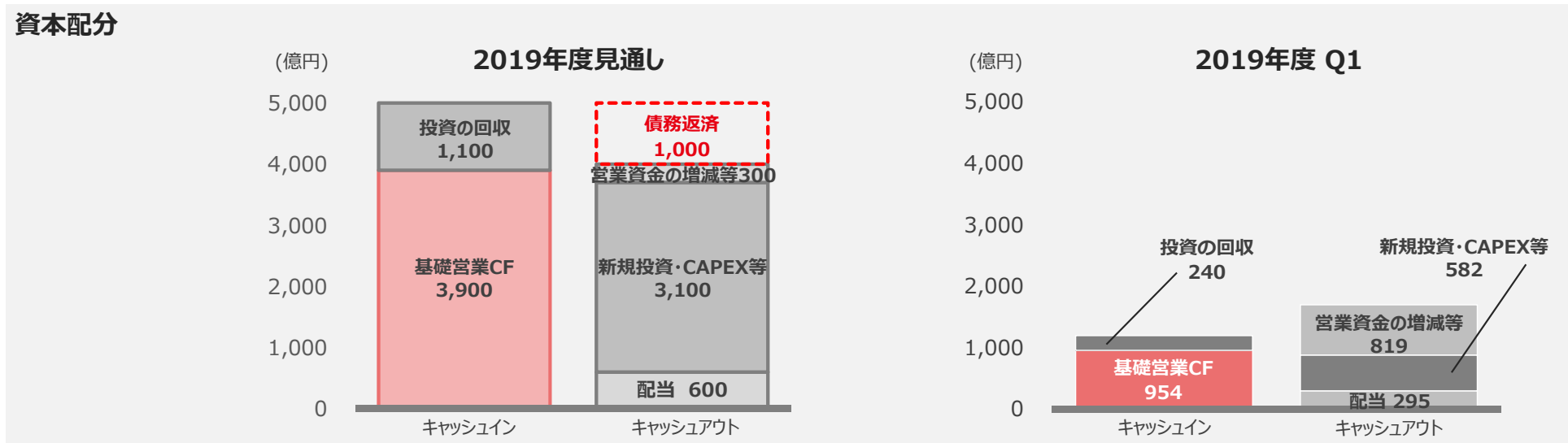
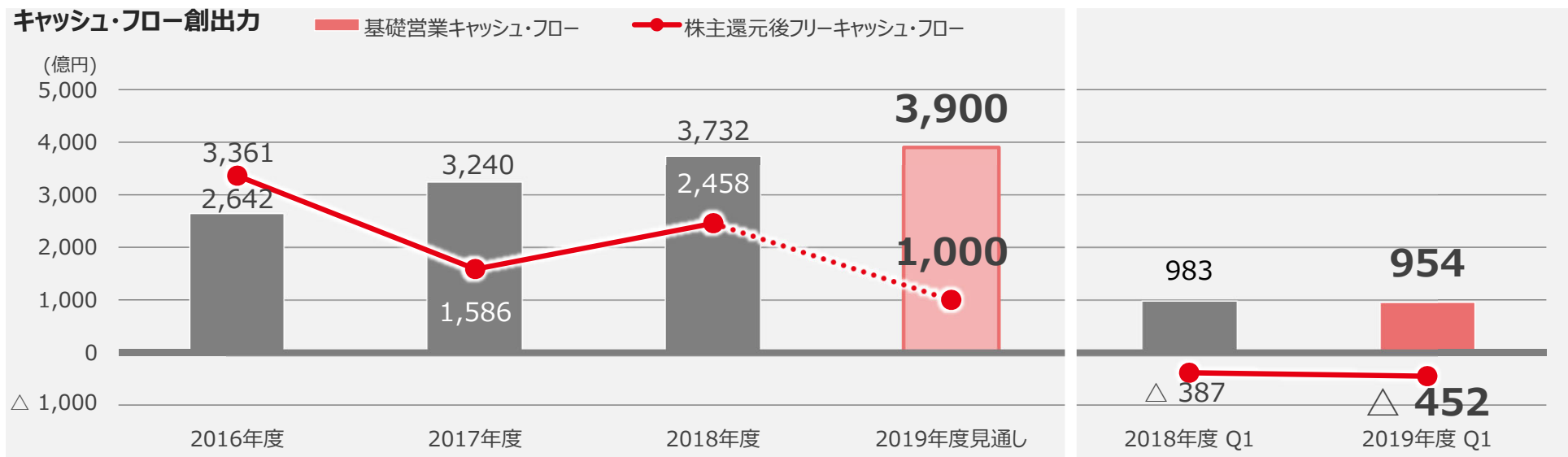
02 純利益と年間配当金



03 純利益・実態純利益の推移



04 キャッシュ・フロー創出力と資本配分

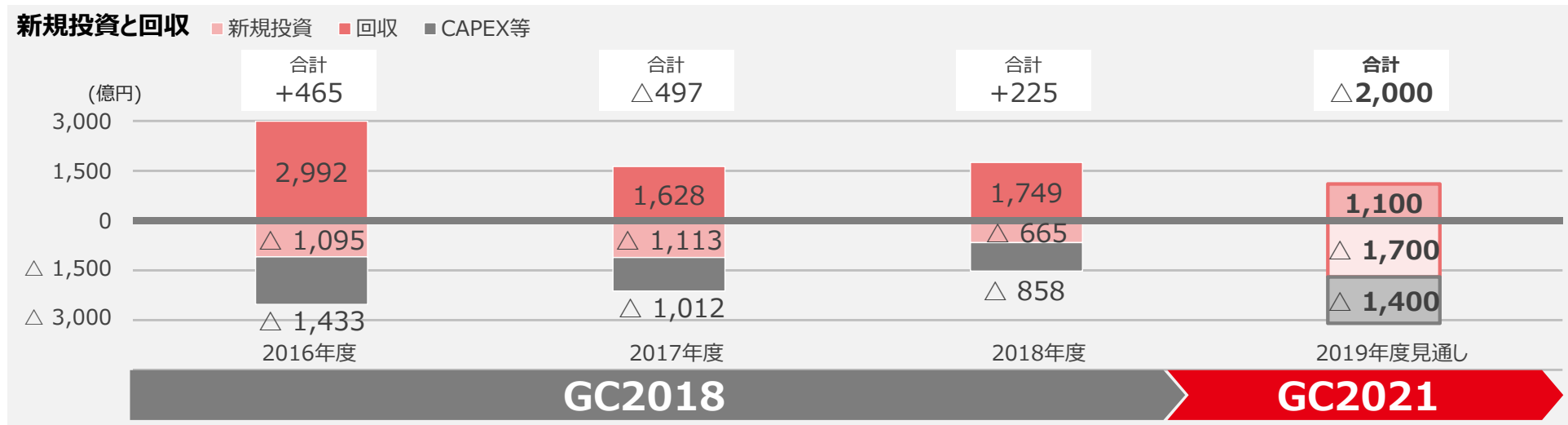


*債務返済：有利子負債、リース債務等の返済

05 新規投資と回収 2019年度第1四半期 主要案件

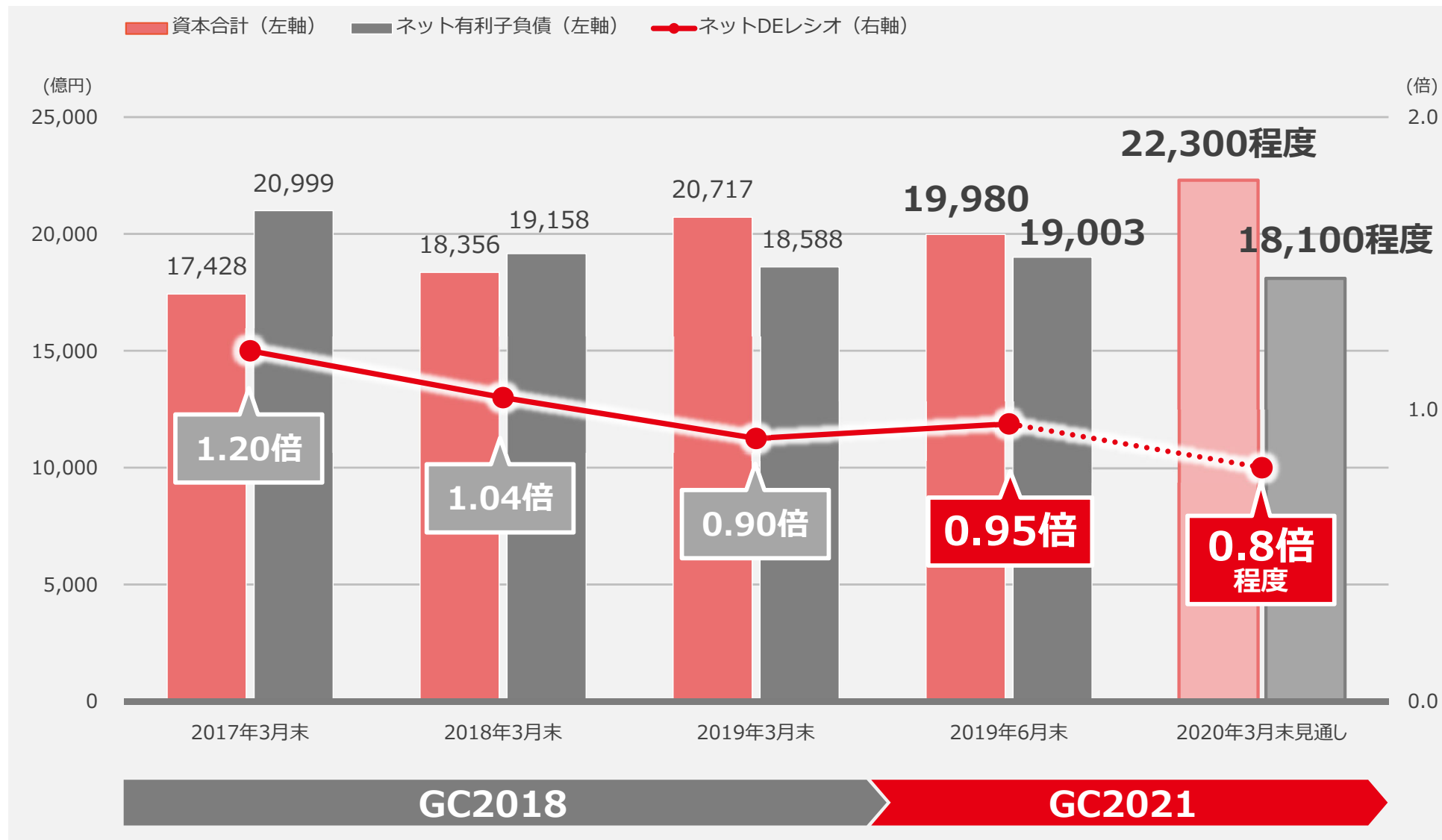
(億円)

	2019年度 Q1			2019年度主要案件			2019年度 見通し
		ホライゾン1	ホライゾン2	ホライゾン3			
新規投資+CAPEX等	△ 582			△ 333	△ 184	△ 65	△ 3,100
新規投資	セールス&マーケティング事業	△ 100		△ 35	△ 65	・飼料添加剤販売事業追加出資(オランダ Olympus Holding (Orffa社)60%→80%) ・アフリカ地域密着型電源事業(Azuri Technologies社) ・水事業追加出資(ポルトガル・ブラジル AGS社50%→100%) ・海外発電事業	△ 1,700
	ファイナンス事業	△ 8		△ 8	-		
	安定収益型事業	△ 114		△ 114	-		
	資源投資	-		-	-		
CAPEX等	資源投資関連以外	△ 326	△ 326			・農業資材関連事業(米国 ヘレナ社)	△ 1,100
	資源投資関連	△ 34	△ 6	△ 28			△ 300
回収	+240					・国内小売事業(相鉄ローゼン) ・海外発電事業	+1,100
合計	△ 342						△ 2,000

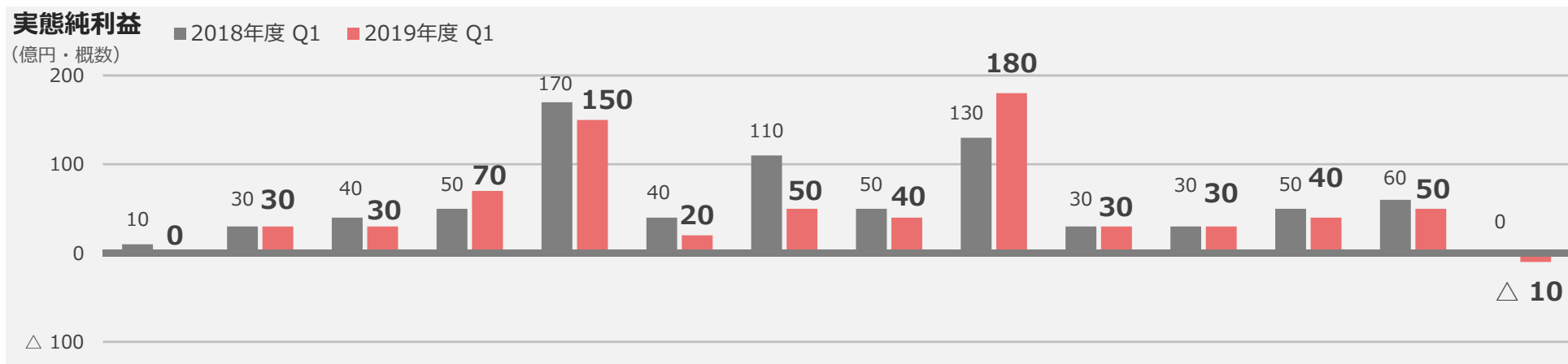
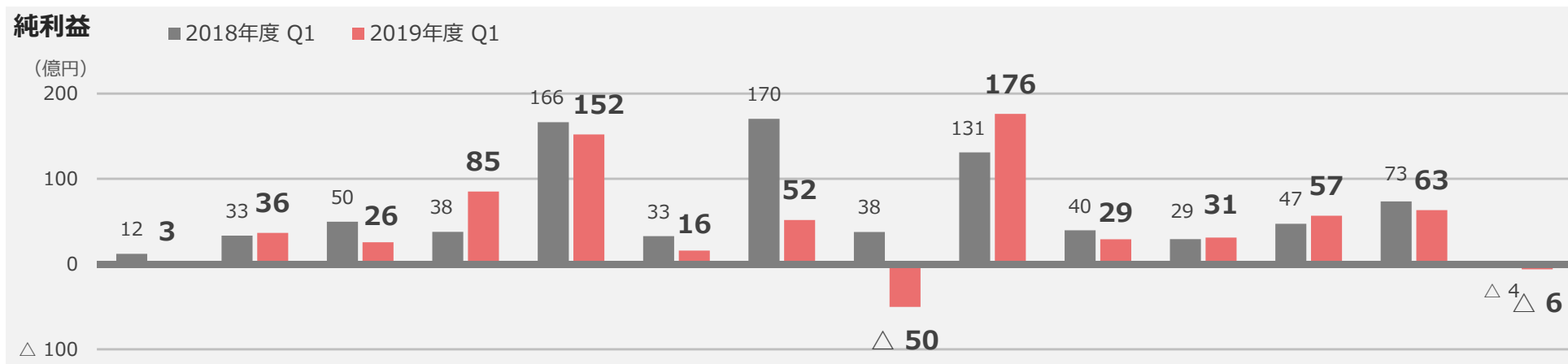


*ホライゾン1：既存事業の充実、ホライゾン2：既存事業領域の戦略追求、ホライゾン3：現状では取り込めていない成長領域、新たなビジネスモデル

06 ネットDEレシオ



07 セグメント別 損益の状況 2019年度第1四半期 / 2018年度第1四半期 実績対比



ライフスタイル	情報・不動産	フォレストプロダクツ	食料	アグリ事業	化学品	電力	エネルギー	金属	プラント	航空・船舶	金融・リース事業	建機・自動車・産機	次世代事業開発
生活産業			食料・アグリ・化学品			電力・エネルギー・金属			社会産業・金融				

*セグメント別2019年度見通しは、IR補足資料 P.2 参照。

08 市況・資源 持分生産量／販売量

市況		2018年度 Q1	2019年度 Q1	前年同期比	2019年度 見通し	感応度 *4 (対、年間純利益)
原油	WTI価格 (ドル/バレル)	68	60	- 8	57	約4億円/[1ドル/バレル]*5
銅	LME銅価格 (ドル/トン) *1	6,819	6,308	- 511	6,550	約10億円/[100ドル/トン]
金利	円 TIBOR 3M (%)	0.069	0.068	0.001 ¹ ° 円 下落	0.1	
	ドル LIBOR 3M (%)	2.338	2.507	0.169 ¹ ° 円 上昇	2.6	
為替	円/ドル 期中平均レート (円)	109.07	109.90	0.83円 円安	110	約12億円/[1円/ドル]
	円/ドル 期末レート (円)	2019年3月末 110.99	2019年6月末 107.79	前年度末比 3.2円 円高	2020年3月末 110	
持分生産量／販売量		2017年度 通期	2018年度 通期	2019年度 見通し		
石油・ガス	持分生産量 (千バレル相当/日量)	28	30	29		
	上段：石油・ガス開発事業 *2 下段：当社持分合計 *3	33	34	33		
銅	持分販売量 (千トン)	121	133			
原料炭	持分販売量 (千トン)	6,170	5,668			

*1 Q1は3月-5月、通期は3月-2月の平均価格

*2 米国メキシコ湾、英領北海、インド洋における石油・ガス開発事業の合計

*3 上記の石油・ガス開発事業を含む、連結対象会社の生産分与契約に基づく持分の合計

*4 2019年度期初計画に対する感応度

*5 石油・ガス開発事業における感応度